

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Acetonitrile, (Lu)
製品コード : LU01
CAS 番号 : 75-05-8

会社情報

株式会社 同仁化学研究所
〒861-2202
熊本県上益城郡益城町田原 2025-5
TEL 096-286-1515 - FAX 096-286-1525

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途及び使用上の制限 : 試験研究用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高压ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分 2	
	可燃性固体	区分に該当しない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	区分に該当しない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過酸化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	鈍性化爆発物	分類できない	
	健康有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
		急性毒性 (経皮)	区分 3
		急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入: 蒸気)		区分 4	
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)		分類できない	
皮膚腐食性/刺激性		区分に該当しない	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分 2	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		分類できない	
生殖細胞変異原性		分類できない	
発がん性	分類できない		

	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分1 (呼吸器系, 中枢神経系)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分2 (血液系, 呼吸器系, 中枢神経系, 腎臓, 肝臓)
	誤えん有害性	分類できない
環境有害性	水生環境有害性 短期 (急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示 (GHS
JP)



注意喚起語 (GHS JP) : 危険

危険有害性 (GHS JP) : 引火性の高い液体及び蒸気 (H225)
皮膚に接触すると有毒 (H311)
強い眼刺激 (H319)
吸入すると有害 (H332)
臓器の障害 (呼吸器系、中枢神経系) (H370)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (血液系、呼吸器系、中枢神経系、腎臓、肝臓) (H373)

注意書き (GHS JP)

安全対策 : 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
(P210)
容器を密閉しておくこと。(P233)
容器を接地しアースをとること。(P240)
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。(P241)
火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
静電気放電に対する措置を講ずること。(P243)
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。(P271)
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

応急措置

: 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。(P302+P352)
皮膚 (又は髪) に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を水で洗うこと。(P303+P361+P353)
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。(P308+P311)
気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)
特別な処置が必要である (このラベルの補足的な応急措置の説明を見よ)。(P321)
眼の刺激が続く場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)
汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P361+P364)
火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)

- 保管 : 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)
施錠して保管すること。(P405)
- 廃棄 : 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)
- 処理時の追加危険有害性 : 通常の使用条件下では、重大な危険有害性はないと思われる。

3. 組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別 : 化学物質
- 化学名 : Acetonitrile
- 別名 : (Lu)Acetonitrile

名前	濃度 (%) *製品規格値ではありません。	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
Acetonitrile, (Lu)	< 100	C2H3N	(2)-1508	既存化学物質	75-05-8

4. 応急措置

応急措置

- 応急措置 一般 : ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

- 症状/損傷 吸入した場合 : ヒト及び動物に対する毒性データは知見されていないが、本製品は吸入危険有害性と見なされる。
- 症状/損傷 皮膚に付着した場合 : 通常の条件下では特に無し。
- 症状/損傷 眼に入った場合 : 眼刺激。
- 症状/損傷 飲み込んだ場合 : 通常の条件下では特に無し。

医師に対する特別な注意事項

- その他の医学的アドバイスまたは治療 : 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 火災危険性 : 引火性の高い液体及び蒸気。
- 爆発の危険 : 直接に爆発する危険は全くない。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 有毒な煙を放出する可能性がある。
- 消火方法 : 安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。
呼吸器の保護を含め、適切な保護装置を使用せず、火災現場に入らな

- 消火時の保護具
- い。
 - : 適切な保護具を着用して作業する。
自給式呼吸器。
完全防護服。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置
- : 安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。
本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。

非緊急対応者

- 保護具
- : 推奨される個人用保護具を着用する。
- 応急処置
- : 漏出エリアを換気する。
裸火、火花禁止、禁煙。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
皮膚、眼、あるいは衣服との接触を避ける。

緊急対応者

- 保護具
- : 適切な保護具を着用して作業する。
詳細については、第8項の「ばく露防止及び保護装置」を参照。
- 応急処置
- : 不要な職員を退避させる。
安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項
- : 環境への放出を避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 封じ込め方法
- : 砂または土により、すべての拡散した製品を吸収する。
流出した物質は吸着剤で回収し、下水溝や水路への侵入を防止する。
可能であればリスクなく漏出をせき止める。
- 浄化方法
- : 吸収剤の中で拡散した液体を吸収する。
本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
- その他の情報
- : 物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策
- : データなし
- 安全取扱注意事項
- : 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
容器を接地すること／アースをとること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。
防爆型装置を使用する。
個人用保護具を着用する。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
眼、皮膚、衣類につけないこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

接触回避	: データなし
衛生対策	: 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 製品取扱い後には必ず手を洗う。
処理時の追加危険有害性	: 通常の使用条件下では、重大な危険有害性はないと思われる。

保管

安全な保管条件	: 常温で保管すること。 容器を密閉して保管すること。
安全な容器包装材料	: データなし
技術的対策	: 容器を接地すること/アースをとること。
容器包装材料	: 製品は必ず元の容器と同じ素材の容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	: 作業所の十分な換気を確保する。
------	-------------------

保護具

個人用保護具	: 推奨される個人用保護具を着用する。
呼吸用保護具	: [換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具	: 保護用手袋
眼の保護具	: 安全メガネ
皮膚及び身体の保護具	: 適切な保護衣を着用する。
環境へのばく露の制限と監視	: 環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
分子量	: 41.05
色	: 無色液体
臭い	: 特徴的な臭気
pH	: データなし
融点	: データなし
凝固点	: データなし
沸点	: 81.6 °C
引火点	: データなし
自然発火点	: 524 °C
分解温度	: データなし
可燃性	: 引火性の高い液体及び蒸気
蒸気圧	: 9.6
密度	: 0.786
溶解度	: 水と混和
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: -0.3
爆発限界 (vol %)	: データなし
爆発下限界	: 3
爆発上限界	: 16
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

- 反応性 : 引火性の高い液体及び蒸気。
通常の使用、保管、運送の状況下では、当製品は反応しません。
- 化学的安定性 : 通常の条件下では安定。
- 危険有害反応可能性 : 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
- 避けるべき条件 : 高温面との接触を避ける。熱。炎や火花の禁止発火源をすべて断つ。推奨の保存条件及び取扱条件の下では何もありません（第7節参照）。
- 混触危険物質 : データなし
- 危険有害な分解生成物 : 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

- 急性毒性（経口） : 区分に該当しない
ラットのLD50値として、1,315 mg/kg（雄）、1,730 mg/kg（雌）、2,230 mg/kg（雌）、2,460 mg/kg（雄）、3,053 mg/kg（雄）、3,200 mg/kg、3,445 mg/kg（雄）、3,800 mg/kg、4,050 mg/kg（雌）、6,702 mg/kg（雌）（EHC 154（1993））との10件の報告があり、2件が区分4、8件が区分外（うち7件が国連分類基準の区分5）に該当する。件数の多い区分を採用して区分外とした。ガイダンスに従い、旧分類から区分を変更した。
- 急性毒性（経皮） : 皮膚に接触すると有毒
ウサギのLD50値として、395 mg/kg（雄）（75%水溶液）、978.8 mg/kg（雄）（原液）（EHC 154（1993）、EU-RAR（2002）、NITE 初期リスク評価書（2007））、3,915 mg/kg（原液）（EHC 154（1993）、EU-RAR（2002）、PATTY（6th, 2012））との3件の報告があり、2件が区分3、1件が区分外（国連分類基準の区分5）に該当する。件数の多い区分を採用して区分3とした。
- 急性毒性（吸入） : 区分に該当しない（分類対象外）（気体）
吸入すると有害
分類できない（粉じん、ミスト）
- 急性毒性（吸入:気体） : GHSの定義における液体である。
- 急性毒性（吸入:蒸気） : ラットの4時間吸入ばく露試験のLC50値として、16,000 ppm（雌雄）（EHC 154（1993）、EU-RAR（2002）、NITE 初期リスク評価書（2007）、PATTY（6th, 2012））、8時間吸入ばく露試験のLC50値として、7,551 ppm（雄）（4時間換算値: 10,679 ppm）、12,435 ppm（雌）（4時間換算値: 17,586 ppm）（EHC 154（1993）、EU-RAR（2002）、NITE 初期リスク評価書（2007））に基づき、区分4とした。旧分類から区分を変更した。なお、LC50値が飽和蒸気圧濃度（98,020 ppm）の90%より低いため、ミストがほとんど混在しないものとして、ppmを単位とする基準値を適用した。
- 急性毒性（吸入:粉じん、ミスト） : データ不足のため分類できない。

Acetonitrile, (Lu) (75-05-8)	
LD50 経口	2230 mg/kg
LD50 経皮	296 mg/kg
LC50 吸入 - ラット（蒸気）	17.93 mg/l/4h
ATE JP（経口）	2230 mg/kg bodyweight
ATE JP（経皮）	296 mg/kg bodyweight
ATE JP（蒸気）	17.93 mg/l/4h

- 皮膚腐食性／刺激性 : 区分に該当しない
ウサギを用いた複数の皮膚刺激性試験において、本物質に刺激性はみられない、又は軽度の刺激性を示すとの報告（NITE 初期リスク評価書（2007）、EU-RAR（2002））から、区分外（国連分類基準の区分3）とした。

- 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 強い眼刺激
ウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質の眼刺激性は中等度又は重度の刺激性を示すとの報告 (NITE 初期リスク評価書 (2007)、EU-RAR (2002)) から、区分 2 とした。なお、EU CLP 分類において本物質は Eye Irrit. 2 に分類されている (ECHA CL Inventory (Access on June 2017))。
- 呼吸器感作性 : 分類できない
データ不足のため分類できない。
- 皮膚感作性 : 分類できない
モルモットを用いた皮膚感作性試験において、陰性との記述 (EU-RAR (2002)) があるが、詳細は不明のため分類できないとした。
- 生殖細胞変異原性 : 分類できない
In vivo では、吸入ばく露によるマウスの末梢血を用いた小核試験で陽性、腹腔内投与によるマウスの骨髄細胞、末梢血を用いた小核試験で陰性、ラットの肝細胞を用いた不定期 DNA 合成試験で陰性である (NITE 初期リスク評価書 (2007))、ACGIH (7th, 2002)、DFGOT vol. 19 (1993)、EU-RAR (2002)、IRIS Tox.Review (1999)、EHC 154 (1993)、NTP TR447 (1996)、環境省リスク評価第 3 卷 (2004))。In vitro では、細菌の復帰突然変異試験で陰性、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験、マウスリンフォーマ試験、染色体異常試験で陰性、姉妹染色分体交換試験で弱陽性である (NITE 初期リスク評価書 (2007)、ACGIH (7th, 2002)、DFGOT vol. 19 (1993)、EU-RAR (2002)、IRIS Tox.Review (1999)、EHC 154 (1993)、NTP TR447 (1996)、環境省リスク評価第 3 卷 (2004))。以上より、in vivo 試験で陽性と報告されている 2 件の小核試験 (腹腔内投与によるマウス骨髄細胞を用いた試験、吸入によるマウス赤血球を用いた試験) はいずれも欠点があり、また、用量反応性も明確でないことに加え、OECD TG に従って実施した小核試験 (腹腔内投与によるマウス骨髄細胞と末梢血を用いた試験) では陰性であったことから、EU-RAR では総合的な遺伝毒性評価として遺伝毒性の有無については明確に判断することはできないとしている。したがって、小核での明確な陽性知見がないことから分類できないとした。旧分類に記載された in vivo 小核試験の陽性結果は不明確であることから、区分を見直した。
- 発がん性 : 分類できない
ラット及びマウスに 2 年間吸入ばく露した発がん性試験において、ラットの雄では高用量で肝細胞腺腫と肝細胞がんの合計頻度のわずかな増加がみられたが、雌ラット及び雌雄マウスには腫瘍性病変の頻度増加はみられなかった (NTP TR447 (1996))。NTP は雄ラットで発がん性の不確かな証拠、雌ラット及び雌雄マウスでは発がん性の証拠なしと結論した (NTP TR447 (1996))。既存分類では ACGIH で A4 (ACGIH (7th, 2002))、EPA で CBD (cannot be determined) に分類されている (IRIS (1999))。以上より分類できないとした。
- 生殖毒性 : 分類できない
妊娠ラット、又は妊娠ウサギを用いた経口投与による発生毒性試験では、母動物に死亡例、体重増加抑制、吸収胚の増加がみられる最高用量 (ラットで 275 mg/kg/day、ウサギで 30 mg/kg/day) においても胎児に重大な発生影響はみられなかった (NITE 初期リスク評価書 (2007)、ACGIH (7th, 2002)、環境省リスク評価第 3 卷 (2004))。また、妊娠ラットを用いた吸入ばく露による 2 つの発生毒性試験においても、母動物に死亡がみられる用量で胎児に影響はみられていない (NITE 初期リスク評価書 (2007)、ACGIH (7th, 2002))。なお、妊娠ハムスターの妊娠 8 日に単回吸入ばく露した試験では、母動物に死亡例が発生する濃度の 2 倍以上の高濃度では外脳、脳瘤、肋骨癒合など奇形発生の報告がある (NITE 初期リスク評価書 (2007)、ACGIH (7th, 2002)、環境省リスク評価第 3 卷 (2004))。以上、動物試験結果より、経口及び吸入経路で実験動物では発生影響を示す可能性は低いと考えられるが、生殖能・性機能への影響に関する情報がなく、データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 臓器の障害(呼吸器系, 中枢神経系)

ヒトでは本物質の誤飲や自殺企図による経口摂取例、及び工場での事故による急性吸入ばく露例が複数例報告されており、急性影響は、疲労感、悪心、嘔吐、錯乱、痙攣、昏睡等であり、重度の場合は死に至るとの記載がある(NITE 初期リスク評価書(2007))。また、吸入ばく露で鼻、喉に刺激があるとの報告がある(NITE 初期リスク評価書(2007))。実験動物では、マウスの単回経口投与試験で区分2範囲の300~2,000 mg/kgで、自発運動低下、振戦、衰弱、正向反射低下、努力呼吸、痙攣、喘ぎ、流涎が認められたとの報告がある(EU-RAR(2002)、NITE 初期リスク評価書(2007))。また、マウスの4時間単回吸入ばく露試験で区分2範囲の3,039~5,000 ppmで、自発運動低下、歩行異常、正向反射消失、緩徐呼吸、努力性呼吸、速呼吸、喘ぎ、体温低下、後肢伸展、横臥位、被毛の黄色化が認められたとの報告(EU-RAR(2002)、NITE 初期リスク評価書(2007))、及びマウスの1時間単回吸入ばく露試験で500~5,000 ppm(4時間換算値: 250~2,500 ppm、区分1範囲に相当)で、重度の呼吸困難、あえぎ、振戦、痙攣が認められたとの報告(EHC 154(1993)、EU-RAR(2002)、NITE 初期リスク評価書(2007))がある。更に、ラットの8時間単回吸入ばく露試験で生存例と死亡例の両方に肺の出血とうっ血が認められたとの報告がある(EU-RAR(2002)、NITE 初期リスク評価書(2007))。この試験では用量の詳細な記載はないが、LC50値(4時間換算値)は10,678 ppm(雄)、17,585 ppm(雌)と報告されており、影響は区分2範囲の用量でみられたと考えられる。以上の情報から、本物質は中枢神経系と呼吸器に影響を与えると考えられる、したがって区分1(中枢神経系、呼吸器)とした。

- 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(血液系, 呼吸器系, 中枢神経系, 腎臓, 肝臓)
ヒトに関する情報はない。実験動物については、ラットを用いた蒸気による13週間吸入毒性試験(6時間/日、5日間/週)において、区分2のガイダンス値の範囲内である800 ppm (1,340 mg/m³ (90日換算: 0.97 mg/L))以上で死亡、自発運動低下、被毛粗剛、胸腺の重量減少、貧血症状(赤血球数・ヘモグロビン濃度・ヘマトクリット値の減少)、死亡例で肺のうっ血及び水腫、肺胞・脳出血、骨髄細胞減少、胸腺の萎縮、脾臓のリンパ球減少、卵巣の黄体減少がみられ(NITE初期リスク評価書(2007)、環境省リスク評価第3巻(2004)、NTP TR447(1996))、ラットを用いた蒸気による90日間吸入毒性試験(7時間/日、5日/週)において、区分2のガイダンス値の範囲内である166 ppm (279 mg/m³ (90日換算: 0.33 mg/L))以上で肺拡張不全、肺胞の組織球性細胞集簇、330 ppm (554 mg/m³ (90日換算: 0.65 mg/L))以上で気管支炎、肺炎がみられている(NITE初期リスク評価書(2007)、EURLAR(2002))。また、マウスを用いた蒸気による13週間吸入毒性試験(6時間/日、5日/週)において、区分1のガイダンス値の範囲内である100 ppm (168 mg/m³) (90日換算: 0.12 mg/L)以上で肝臓の重量増加、区分2のガイダンス値の範囲内である200 ppm (335 mg/m³) (90日換算: 0.24 mg/L)以上で前胃の上皮過形成を伴う限局性潰瘍、400 ppm (670 mg/m³) (90日換算: 0.48 mg/L)で死亡、肝細胞空胞化、800 ppm (1,340 mg/m³) (90日換算: 0.97 mg/L)で自発運動低下、円背位、筋硬直がみられ(NITE初期リスク評価書(2007)、NTP TR447(1996))、マウスを用いた蒸気による92日間吸入毒性試験(6.5時間/日、5日/週)において、区分1のガイダンス値の範囲内である100 ppm (168 mg/m³) (90日換算: 0.18 mg/L)以上で肝臓の重量増加、区分2のガイダンス値の範囲内である200 ppm (335 mg/m³) (90日換算: 0.36 mg/L)以上で死亡、赤血球数・ヘマトクリット値減少、肝細胞空胞化がみられている(NITE初期リスク評価書(2007))。このほか、サルを用いた蒸気による91日間吸入毒性試験(7時間/日、5日/週)において、区分2のガイダンス値の範囲内である350 ppm (588 mg/m³) (ガイダンス値換算: 0.69 mg/L)で脳の上矢状もしくは下矢状静脈洞の出血、肺の乾酪性結節、肝臓の退色、限局性肺気腫、肺胞上皮のびまん性増生、急性気管支炎、限局性マクロファージ色素沈着、腎臓の近位尿管の混濁腫脹がみられている(NITE初期リスク評価書(2007))。以上から、区分2(血液系、中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓)とした。なお、前胃の所見は刺激によるものと考え分類根拠としなかった。
- 誤えん有害性 : 分類できない
データ不足のため分類できない。なお、HSDB (Access on June 2017)に収載された数値データ(粘性率: 0.35 mPa・s (20℃)、密度(比重): 0.78745)より、動粘性率は0.444 mm²/sec (2℃)と算出される。

12. 環境影響情報

生態毒性

- 生態系 - 全般 : 本物質は水生生物に対して有害とは考慮されず、また、環境に対しても長期的な有害な影響を及ぼさない。
- 水生環境有害性 短期(急性) : 区分に該当しない
藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)72時間EC50(速度法) >700 mg/L、魚類(メダカ)96時間LC50 >100 mg/L(ともに環境生態影響試験:2017)、甲殻類(オオミジンコ)96時間LC50 >100 mg/L(環境省環境リスク評価(第3巻):2004)であることから、区分外とした。

水生環境有害性 長期（慢性） : 区分に該当しない
 急速分解性があり（良分解性、BODによる平均分解度：65%（化審法DB:1998））、蓄積性がなく（LogPow：-0.34（PHYSPROP Database：2017））、甲殻類（オオミジンコ）の21日間NOEC（繁殖阻害）= 960 mg/L（環境省環境リスク評価（第3巻）:2004）、藻類（Pseudokirchneriella subcapitata）の72時間NOEC（速度法）= 700 mg/L（環境省生態影響試験:2017）であることから、区分外とした。

Acetonitrile, (Lu) (75-05-8)	
NOEC 甲殻類 慢性	960 mg/l
NOEC 藻類 慢性	700 mg/l
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.3

残留性・分解性 : データなし

生体蓄積性 : データなし

n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow) : -0.3

土壤中の移動性 : データなし

n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow) : -0.3

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

その他の有害な影響 : 追加情報なし

13. 廃棄上の注意

推奨製品/梱包処分 : 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
 廃棄方法 : 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物/容器を廃棄する。
 地域の廃棄規則 : 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
 推奨下水処理 : 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
 追加情報 : 引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。
 空の容器を再利用しない。

14. 輸送上の注意

国際規制

航空輸送

国連番号 : 1648

容器等級 : II

区分 : 3

国内規制

毒物及び劇物取締法 : 劇物（指定令第2条）
 有機シアン化合物及びこれを含有する製剤（100%未満）

消防法 : 第4類引火性液体、第一石油類水溶性液体（法第2条第7項危険物別表第1・第4類）

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報 : 航空法の規定に従う。

緊急時応急措置指針番号 : 127

その他の情報 : 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

化審法	: 優先評価化学物質 (法第2条第5項)
労働安全衛生法	: 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9) 危険物・引火性の物 (施行令別表第1第4号) 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9) アセトニトリル (政令番号: 15) (100%) 濃度基準値設定物質 (安衛則第577条の2第2項、令和5年4月27日告示第177号、令和5年4月27日公示第24号) 皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質 (安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・4該当物質の一覧)
毒物及び劇物取締法	: 劇物 (指定令第2条) 有機シアン化合物及びこれを含有する製剤 (100%未満)
消防法	: 第4類引火性液体、第一石油類水溶性液体 (法第2条第7項危険物別表第1・第4類)
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 (Z類物質) (施行令別表第1)
船舶安全法	: 引火性液体類 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	: 引火性液体 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質 (中央環境審議会第9次答申) 揮発性有機化合物 (法第2条第4項) (環境省から都道府県への通達)
水質汚濁防止法	: 有害物質 (法第2条、施行令第2条、排水基準を定める省令第1条)
土壌汚染対策法	: 特定有害物質 (法第2条第1項、施行令第1条)

16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしていますが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではありません。法規制情報に関しましては、安衛法、化管法、毒劇法をはじめとして主な国内の化学物質に関連した法規制の該否判定を行っておりますが、国内法令を全て網羅しているわけではありません。よって記載されていない場合において、当該法規制の対象物質に非該当というところではありません。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負いかねます。当該シートは本製品にのみ使用してください。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがあります。